

令和元年12月17日 校長 高倉 満

□先生方の今年の漢字は？

12日に発表された「今年の漢字」は『令』私は実際に見に行きました。本物は迫力がありました。2年生も清水寺で本物を見た班もあったようです。これも貴重な経験、そして思い出になります。私の今年の漢字は、渋野日向子選手、ワールドラグビーが日本中を歓喜の渦に、そして生徒や先生方の努力が学力向上に・・・から歡です。先生方の今年の漢字は何でしょうか。

□2019年を振り返り～働き方改革は？～

うきは市も働き方改革の大きな波の中、タイムカード、留守電設置、学校閉庁日、運動部活動の基本方針等を積極的に進めてきました。竹並先生が中央研修で多くの県の先生方と交流する中で、ICT活用はもちろん、働き方改革の取組をこれだけ先取りをして進めている市町村は少なかったそうです。学校としても毎週月曜日のノ一部活動、定時退校の実施をはじめ、朝練の常態化の改善、週二回の部活動休止等をお願いしてきました。先生方の多忙さが少しでも改善できればという思いです。でも仕事量は減らず、生徒指導もありと、なかなか徹底できない状況があること、本当に申しわけなく思っています。来年度に向けて改善案、良いアイデアがあれば、参考にしていきます。私や教頭先生、竹並先生に一言お願いします。

① 明るい、楽しい職場！

良い土壌にでないと、どんなに良い種を植えても実りは少ないものです。私たち職場である、職員室や教室等、マイナスの言葉やハラスメント、さらにコミュニケーションが不足すれば、気持ちよく働く事はできません。職員室での朝のあいさつはもちろん、廊下での会話や帰りのあいさつ等、本当に大切です。学年を超えて、授業中や部活動の生徒の良いところ言い合ったり生徒のプラスワンノートの感想を見せ合ったりすることで、職員室に笑顔が溢れます。そして、きつい時にきついと言える雰囲気もつくれます。年休や休みを素直に言い出せる職場づくりは、お互いの笑顔からだと思います。

② 積極的な生徒指導！

私たちの年齢はよく『いやあ～昔は生徒が大変で夜も遅くまで生徒指導ばかりやった』と昔を懐かしむことがあります。学校が落ち着いていなければ家に帰ってもゆっくりできないし、なかなか休みも取れません。やはり中学校は生徒指導が大きな課題です。生徒はいきなり暴れたりはしません。教室で、部活で、家庭で、先生に対して、親に対して友達に対して、何かあるから悪いと分かっている行動にうつします。そのためにも、生徒の変化を私たちが情報共有することが大切です。学年を超えたチームで対応をする多面的な指導も必要です。今、生徒が落ち着いている状況だからこそ、生徒の変化に敏感になること、緊張感をもつことを大切にしていきたいと思います。

③ 共有！

先生方が体力を削って作った資料やプリント。校務分掌で提案をされた資料等。さらには道徳で使われた資料等。きちんと整理をして共有できるようにしておきましょう。次年度に活用できるようにしましょう。浮羽中の大切な財産です。

④ 分掌組織と生徒会！

生徒の勉強が分かりたいという願いは大きいです。だからこそ、授業や学習の仕方を生徒と共に取り組んでみることも大切です。生徒による授業評価を見直して、これからの授業改善に、ぜひ活かしていきましょう。リーダー合唱の取組を見ても、任せればやる生徒たちです。今回の修学旅行の実行委員会や班長の姿を見ても感じました。最初からうまくはいきません。やらない生徒もいるでしょう。でもエネルギーの溢れている生徒、やる気のある生徒を私たちが育てていくことが必要です。